



写真1 三宅島



写真2 御蔵島



写真3 八丈島

伊豆諸島の島曇り*

加藤 信 已**

3枚の写真は1998年7月4日、羽田16時10分発八丈島行きの航空機から撮影した島曇りである(第1図参照)。三宅島・御蔵島の島曇りは島全体を覆うほど広がりがなく、三宅島測候所では17時の日照時間が1時間となっている。一方、八丈島では完全に雲が島を覆っており、17時の日照時間は0となっている。当日は、南高北低の気圧配置で伊豆諸島付近には湿った南西風が卓越していた。

伊豆諸島の島曇りは梅雨期の6月から8月によく現れる。湿度が高い中、島の内陸では低い雲がたれ込み、海岸に行けば晴れているといった島だけに雲がかかる、天気予報での表現が非常に難しい現象である。

島曇りの調査は進んできており、以下のような状況で発生しやすいと判断されている(参考文献より)。

- ・発生時期；梅雨時の6月から8月
- ・気圧配置；南高北低(太平洋高気圧縁辺、梅雨前線が北)
- ・風向；南西から西
- ・風速；7メートル前後(5から8メートル)
- ・気温と露点温度の差が2℃以下
- ・15時の気温と露点温度の差が5℃以下
- ・露点温度と海面水温の差が5℃前後
- ・明け方の最低気温が海面水温よりも高い

なお、風・気温・露点温度は地上におけるものである。

このように、島曇りの発生を予測するための判断材料は多くなったが、発生の程度(雲量・雲底高度)には、黒潮流路の変動による海面水温の高低が大きく関わっていることに着目し調査をしている。八丈島空港においては、八丈島が冷水域に入る黒潮流路の場合に雲底高度が下がり、定期航空機就航率が低くなるという統計結果がこれまでに得られている。

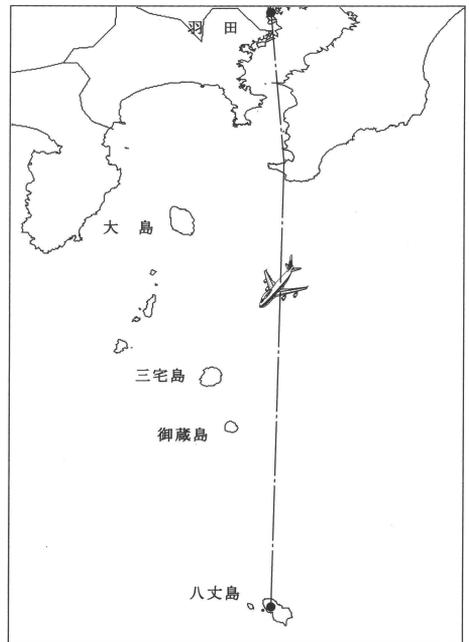
2000年7月23日12時過ぎ、前日から島曇りに覆われていた八丈島で海水温が1℃上昇しただけで内陸にある八丈島測候所上空の雲量が10割から2割に劇的に消

散したことがあった。

観光地である八丈島には6月早々から海水浴客が多く来島する。島曇りを天気予報で「曇」とした場合、天気での印象を悪くしかねない。島の内陸は一日中「曇り」、海岸では一日中「晴れ」。「曇沿岸部では晴？」毎年悩まされる。

参考文献

- 加藤信已, 1998: 三宅島・御蔵島・八丈島の島曇り, 東管技術ニュース, 132, 50-51.
- 窪田邦晃・高塚康史, 1997: 大島の島曇りについてその1～事例解析～, 東京管区気象研究会誌, 30, 66-67.
- 大野博美, 1995: 八丈島の島曇りについて一事例解析から一, 東京管区地方気象研究会誌, 28, 107-108.
- 大野博美, 1999: 八丈島の島曇りについて～その3～一事例解析から一, 東京管区気象研究会誌, 32, 154-155.
- 高塚康史・窪田邦晃, 1997: 大島の島曇りについてその2一統計解析一, 東京管区気象研究会誌, 30, 68-69.



第1図 羽田～八丈島間航空路図。

* Cloudy weather over Izu Islands

** Nobumi Katoh, 八丈島測候所。

© 2001 日本気象学会